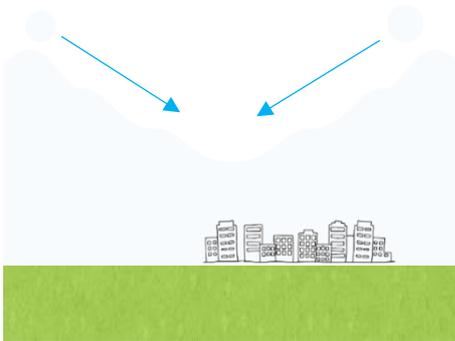


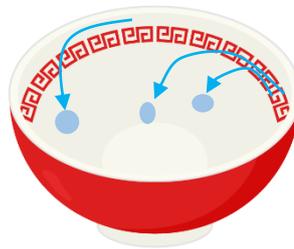
1 <sup>くうき うご かた み</sup> 空気の動き方を見てみましょう。

<sup>よこ み</sup> 横から見ると

<sup>たか ところ ひく ところ</sup> 高い所から低い所へ

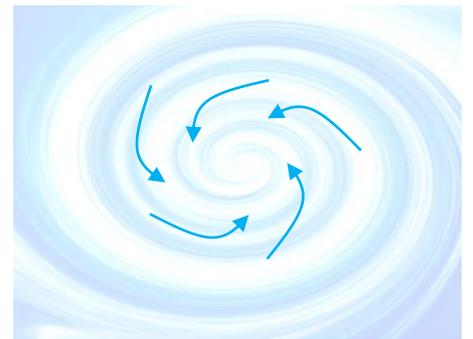


<sup>かん</sup> こんな感じ



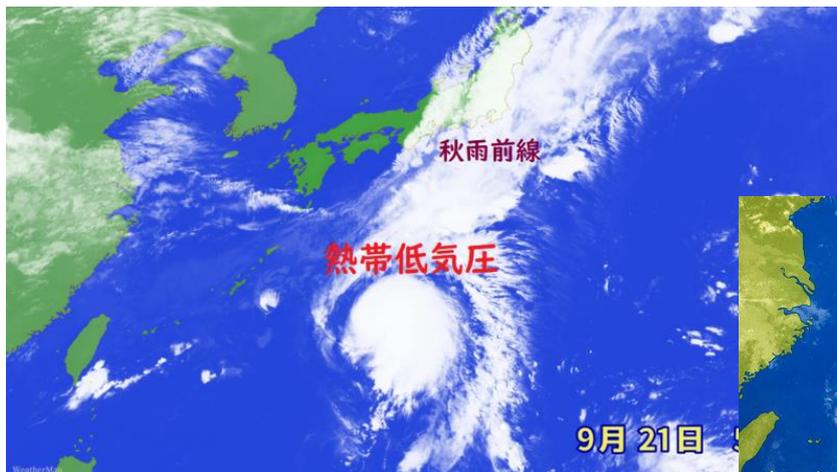
<sup>うえ み</sup> 上から見ると

<sup>まわ ま なか</sup> 周りから真ん中へ



2 <sup>くうき まわ おお ところ こうきあつ</sup> 空気が周りより多い所を「高気圧」、

<sup>すく ところ ていきあつ</sup> 少ない所を「低気圧」といいます。



<sup>みなみ ほう う ていきあつ ねったいていきあつ</sup> 南の方で生まれた低気圧を熱帯低気圧といいます。

<sup>かぜ つよ ねったいていきあつ たいふう</sup> 風が強い熱帯低気圧を台風といいます。 <sup>かぜ はや いじょう</sup> （風の速さが17m/s以上）

3 なつ たいへいようこうき あつ つよ  
夏は太平洋高気圧が大きく強いです。

だから、台風は日本に

ちか  
近づくことができません。

あき たいへいようこうき あつ  
でも、秋には太平洋高気圧が

よわ  
弱くなります。

すると、台風は日本に

ちか  
近づくことができます。

あき ちか たいふう  
秋は日本に近づく台風が

おお  
多くなります。

まいとし こ たいふう  
毎年、26個ぐらいの台風が

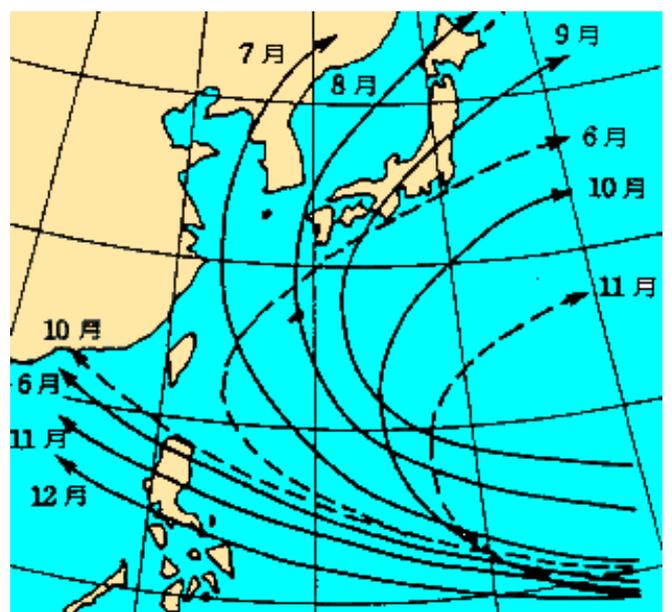
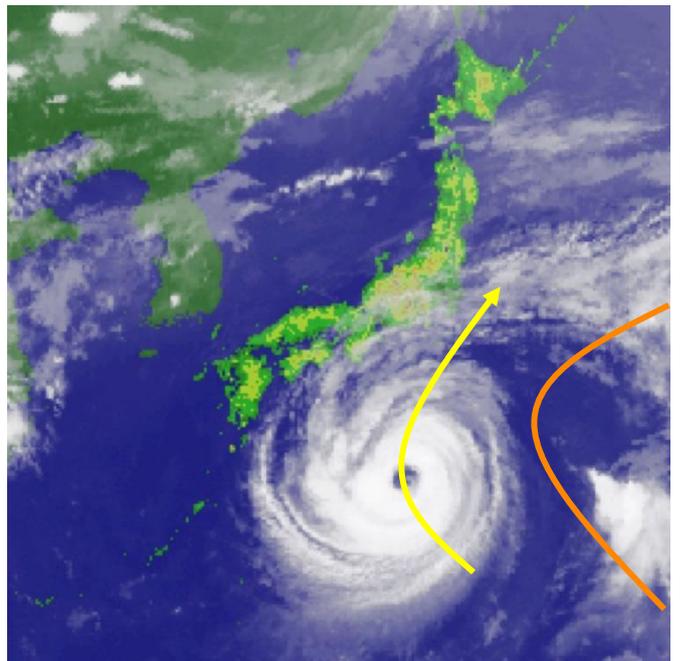
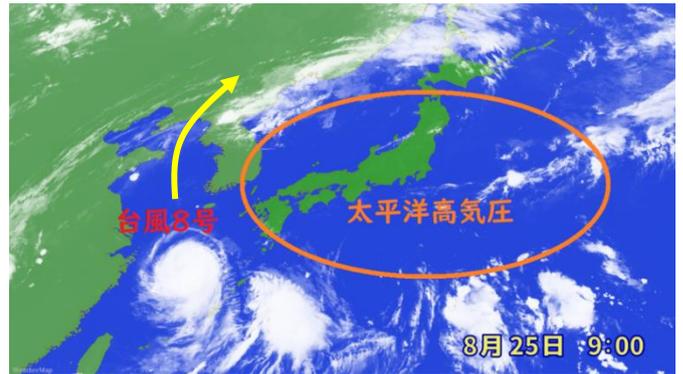
う  
生まれます。

そのうちの11個ぐらいが

ちか  
日本に近づきます。

そして、3個ぐらいが

うえ とお  
日本の上を通過していきます。



資料：気象庁

4 <sup>さいきん</sup> <sup>たいふう</sup> <sup>すう</sup> <sup>ふ</sup>  
最近<sup>さいきん</sup>は、台風<sup>たいふう</sup>の数<sup>すう</sup>が増<sup>ふ</sup>えました。

また、大き<sup>つよ</sup>くて強<sup>たいふう</sup>い台風<sup>たいふう</sup>が

日本<sup>く</sup>に来<sup>く</sup>るようになりまし<sup>た</sup>。

そのた<sup>ひがい</sup>め、大き<sup>で</sup>な被害<sup>で</sup>が出ていま<sup>す</sup>。

写真<sup>ひがい</sup>のよう<sup>ひがい</sup>なこ<sup>ひがい</sup>とを被害<sup>ひがい</sup>といいま<sup>す</sup>。



<sup>おおかせ</sup> <sup>ひがい</sup>  
大風<sup>おおかせ</sup>による被害<sup>ひがい</sup>



a-win net

<sup>おおあめ</sup> <sup>ひがい</sup>  
大雨<sup>おおあめ</sup>による被害<sup>ひがい</sup>



Webronza asahi.com



Nikkei.com

<sup>たかなみ</sup> <sup>ひがい</sup>  
高波<sup>たかなみ</sup>による被害<sup>ひがい</sup>



高波による道路の落橋被害  
(北海道神恵内村) 写真提供:北海道

気象庁ほか



三島市役所



信濃町役場